

関東高校新人大会審判報告

- 1、報告者： 三角 峻（横浜）
- 2、大会名： 令和元度 第30回関東高等学校バスケットボール新人大会
- 3、大会期間： 令和2年2月8日（土）・9日（日）
- 4、会場： 山梨／小瀬スポーツ公園体育館・緑が丘スポーツ公園体育館
- 5、審判動向： 2月7日（金） 審判会議（レクチャー含む）
2月8日（土） 大会第1日（1・2回戦）
2月9日（日） 大会第2日（準決勝・決勝）
- 6、報告：
≪2月7日（金） 審判会議・レクチャー 講師：安西 郷史氏（指名）・大山 賢史氏（指名）≫

【テクニカルファウルを取る場合の4要素】

- ① Fit（その場に適しているか・ガイドラインに当てはまるか）
- ② Effective（効果があるか）
- ③ Description（説明ができる）
- ④ Ball Status（ボールの状況・時計の管理も含めて）

【AOS（アクト・オブ・シューティング）】

ショットをしようとして腕を上上げる動作をするためにプレイヤーが、
片手または両手でボールをギャザー（持った）したときから始まる。

【プロテクトシューター】

何故プロテクトシューターがあるのかを考え、それを大事にしてコートで判定してほしい。

【担当ゲーム】

2月8日（土）男子1回戦

県立市川（山梨） VS 八千代松陰（千葉）

CC) 石崎 公一氏（群馬）

U1) 小泉 登氏（埼玉）

U2) 三角 峻

ミーティング担当) 一色 渉氏（茨城）



〈大会の様子〉

○ゲームの特徴：速い展開からアウトサイドを中心に攻撃を展開する市川とピックマンを中心にインサイドアウトサイドからバランスよく攻撃をつくる八千代松陰とのゲームであった。

〈ミーティングの内容〉

- ・オールコート DEF やゾーンプレス DEF におけるセンターのレフェリングを研究する必要がある。
→ ボール中心になりすぎることなく、どの位置からボールとその周辺に目をあてるのか。
- ・ファウルコール後にどこからスローインをするのかを示すことによって3人のローテーションが明確になり、再開がスムーズになる。
- ・ショットクロックの訂正は、決断が早くよい対応だった。

7、大会を通じて

この度は関東高校新人大会に派遣して頂き、多くの貴重な経験をさせて頂くことができました。このような機会をくださった県協会、県審判グループの皆様には感謝しております。

大会に臨む前の審判会議において、安西氏より2POと3POの違いやテクニカルファウルやAOSについてお話を頂きました。自分自身の知識不足を痛感しながらも安西氏や大山氏の講義を受け、前向きな気持ちで大会に臨むことができました。

担当ゲームは、特にトラブルなく終えることができましたが、センターレフェリーのポジションやビジョンの取り方、メカニクスの理解等、多くの課題がありました。今後はコート上でより多くのことを感じとり、良いゲーム運営をするためにも常にクルーチーフの意識でチャレンジし続ける必要があると感じました。

最後になりますが、今大会でお世話になりました山梨県の役員および審判員の皆様、指名審判員の安西氏・大山氏、長谷川氏、関東ブロック・渡邊審判長をはじめ各都県の審判員の皆様、そしてこの大会へ派遣して頂いた県協会審判グループの皆様には御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



<大会の様子>